

意思決定支援を生活の一部に



「縁起でもない話」を地域の文化に変える、実践と変革の軌跡

研修は「特別な会議」から「日常の会話」へのパラダイムシフトを起こした



ACPへの理解度

ACPへの賛成

**「意思決定支援は、
日常会話の延長でよい」**

この気づきが、現場の心理的ハードルを端的に
下げる最大のブレイクスルーとなった



【研修前】
十分実践できている **5%**



87%

【研修後】
利用者と
話し合ってみたい

心理的ハードルの低下が、現場での対話と100%の「話してよかった」を生み出した



74%

「日常の会話からでよい」という
研修での気づきが、実際の対話を
切り出す最大の助けに



63%

研修後の3ヶ月間で回答者の
6割以上が利用者や家族との
「ACPの対話」を実際にスタート

*何気ない会話の延長や最後の晚餐について
など多様なアプローチを实践



100%

対話を実践した人の全員が
「話してよかった」と回答

心理的ハードルを超えた先には
患者や家族との深い信頼と安心感
が待っていました

個人の勇気から地域の文化へ。

「縁起でもない話」を定着させる次なる飛躍

ツールの不足

エンディングノート
ACPアプリ
話を切り出す手立て

約7割 (69%)

対話実施者の69%が
内容を何らかの「記録」に残せている
現場の準備はすでに整い始めている

医療機関との連携
(63%が要望)

多職種間で情報と
アプローチを
共有する仕組み

【継続的な学習】

×

【実践ツールの提供】

個人の勇気やスキルに頼る段階から、
地域システムとして支える段階へ
「縁起でもない話」を誰もが日常の
テーブルで語り合える地域の文化へと
育てていく必要がある